

12 年に一度の霊場巡り—その 7—



港北地域には霊場巡りがいくつもありますが、多くは、十二支に合わせて 12 年に一度の御開帳です。

この連載でも、これまでに子歳観音の御開帳（第 112～114 回参照）や、寅歳薬師の御開帳（第 135～137 回参照）を紹介してきました。

平成 26 年（2014 年）の午歳には、准秩父三十四札所観音菩薩霊場の御開帳がありました。その紹介は、都合により次回の御開帳がある 2026 年にさせていただきます。

さて、今年は酉歳で都筑橋樹西歳地藏菩薩霊場と武相不動尊霊場の御開帳がありますので、紹介します。何度か書いてきましたが、寺社等は信仰の場ですから、参拝される時はマナーに気をつけて下さい。

都筑橋樹西歳地藏菩薩霊場

お地藏様は、正式には地藏菩薩といひます。仏教の教えでは、お釈迦様（釈尊）が死亡（入滅）した後は、56 億 7000 万年後に弥勒菩薩が仏として出現するまでの間、現世に仏が不在となります。そのため、地藏菩薩が六道（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道）を繰り返し生まれ変わり（輪廻）、苦しむ衆生を救うといわれています。

この地藏菩薩を参拝する都筑橋樹西歳地藏の始まりは、江戸時代中期に遡るようです。飢饉や洪水により世情が不安定となり、苦しめられた庶民が、札所を巡り念仏や御詠歌を唱え、現世利益と来世の安楽を祈念したことがその始まりといわれています。

地藏の縁日である 24 日にちなみ、当初の札所は 24 ヲ所でしたが、近代になり番外の 1 ヲ所が加わり、現在は 25 ヲ所になっています。名称のごとく昔の都筑郡と橋樹郡に分布しています（横浜市青葉区・都筑区・港北区、川崎市中原区・高津区・宮前区）。

今回の御開帳は、4 月 16 日（日）～5 月 8 日（月）の 9 時から 17 時です。では、港北区内にある札所を順に紹介していきましょう。

6 番札所 北新羽地藏堂（高野山真言宗）

御詠歌 極楽と 心さだめて 詣るべし

地藏菩薩の つなひに ひかれて

新羽町の内、宇新田谷、北ノ谷、真間門谷、海老ヶ谷を北新羽といひます。北ノ谷の綱引山地藏堂は、江戸時代に、村内の光明寺の境外仏堂として創建されました。本尊の厄除延命地藏は、北ノ谷の女性 20 人が宝永 4 年（1707 年）に造立したものです。現在のお堂は、昭和 39 年（1964 年）に北ノ谷の方々が再建したもので、北新羽会館の前にあります。

7 番札所 神隠堂

御詠歌 小車の まわる輪廻は 神かくし
あらはしたまへ むねの御仏

因果の小車といひます。原因と結果は小さな車が廻るようにすぐに巡ってくるという意味の諺です。神隠は新吉田町の字の 1 つですが、隠すと表すが対になっています。

延命地藏菩薩は、甲斐武田の家臣山本勘助の守り本尊だったとの伝説があります。神隠堂があった場所は中町のバス停付近で、浄流寺の飛地境内となっていました。前回平成 17 年（2005 年）の御開帳のすぐ後に、浄流寺へ移されました。それを記念して、お堂の詳細を記録した、相澤雅雄著『都筑橋樹西歳地藏菩薩霊場第七番札所神隠地藏堂縁起』が発行されています。

8 番札所 浄流寺（浄土宗）

御詠歌 むつの字の 契はかりを 力草
罪の衆生も たのみあるかな

むつの字とは、「南無阿弥陀仏」の六字名号のことです。力草とは、力になるものと頼みにすることで、下の句の「たのみ」と掛けてあります。

新吉田町の浄流寺は、小机の泉谷寺末で、天正 12 年（1584 年）真譽伝公（1598 年寂）が開山し、境内左手の地藏堂もその時に建立されたと伝えられています。八番札所の延命地藏は、元文 3 年（1738 年）大仏師高橋大学作で、現在は本堂に安置されています。

地藏堂は昭和 40 年（1965 年）と、平成 25 年（2013 年）に再建されて、名を榎堂神隠堂と改称し、7 番札所と 9 番札所の 2 体の地藏を安置しています。

9 番札所 榎堂

御詠歌 よしあしも とともに吉田の榎堂
大悲の功德 あらはれにけり

「よしあし」は、「善し悪し」ですが、吉田の地名の由来とも掛けてあるのでしょうか（第 161 回参照）。大悲とは、地藏菩薩が衆生の苦しみを救う大きな慈悲のことです。

榎堂はかつて新田農協の脇にあり、宇宮ノ下・四ツ家の講中により信仰されてきましたが、昭和 40 年（1965 年）に 8 番札所の浄流寺に移転しました。

『新田むかしむかし』第 1 号によると、この延命地藏は 妹地藏といひ、対になる姉地藏が下田にあるそうですが、今では忘れられた伝承のようです。

記：平井 誠二（公益財団法人大倉精神文化研究所研究部長）